

美術専攻 日本画研究領域

モウリ アヤノ

# 毛利 彩乃



## ボイラー室

岩絵具、雲肌麻紙

## ボイラー室

### 人工物のある風景—再構成による物語性の創造—

多くの画家にとって制作の原動力は、社会への貢献や誰かへの影響ではなく、自分の「描きたい」という純粋な欲求にあるはずである。私は子供の頃から神経質で、日々の不安を空想によって補う癖があり、何気ない風景の中に物語性を見出すことで、不安を楽しさに変換していた。そうした経験が、現在の制作の姿勢につながっている。

描く題材は、日常の中で出会った風景、とりわけ近代的な建築物などの人工物である。人工物は、現実の延長にあることで感覚的な没入を可能にし、私にとって「入り込んでみたい物語の舞台」となる。それは必ずしも万人にとって印象的な風景ではないが、自分自身の心象風景として再構成することで、個人的な世界観を描き出す行為に魅力がある。

修了制作《ボイラー室》では銭湯の釜場にある配管や機械類、年季の入った壁などの人工物の集合体から独特な世界観を感じ取り、制作した。そのほかに、タイルや蛇口といった生活感のあるモチーフを元に非日常的な風景を構成するなど、人工物というモチーフを通じ、日常と非日常の境界を行き来する世界を描いた。

風景とは、絵の着想であり、画家の純粋な欲求を象徴する構成要素である。人工物はその中でも特に現実的でありながら想像力を刺激する存在であり、それを切り取り再構成することで独自の物語を紡いでいきたい。今後も日常の中に潜む物語性を掘り上げ、絵の中に没入できるような作品づくりを続けていくつもりである。